

# 虐待等の予防事業（アウトリーチ型支援）について

福祉文教委員会資料  
令和5年8月8日提出

妊娠期

新生児期  
(出生～生後4週間)

乳児期  
(～満1歳未満)

幼児期  
(～小学校入学前)

養育支援訪問事業

訪問指導（妊産婦、新生児、乳幼児健診未受診者）事業

低出生体重児健康診査（カンガルーケア）事業

乳児家庭全戸訪問事業  
(赤ちゃんすくすく元気訪問)

産後ケア事業

産前・産後生活支援事業

支援対象児童等見守り強化事業

ひとり親家庭等日常生活支援事業

# 虐待等の予防事業（アウトリーチ型支援）について

## 養育支援訪問事業（子育て支援課 母子保健係）

### 1 目的

- ①産前産後の心身の不調や家庭環境に問題を抱える家庭の支援  
保健師、助産師及び家庭児童相談員が訪問し、専門的相談支援や育児・家事の支援を行う
- ②児童虐待の未然防止  
早期に家庭に関わり、育児不安を軽減し、家庭の養育力の向上を図る

### 2 対象

- ①妊娠や子育てに不安を持ち、支援を希望する家庭
- ②特定妊婦（若年・妊婦健診未受診・出産を望まない）家庭
- ③育児ストレス、産後うつ、育児ノイローゼ等により、子育てに対して強い不安や孤立感等を抱える家庭
- ④衣食住の養育環境においてリスクを抱え、支援が必要な家庭
- ⑤公的な支援につながっていない状態（各種健診等の谷間の期間、保育所等の未利用）であるため、支援が必要な家庭
- ⑥児童養護施設や里親の終了により、児童が復帰した後の家庭

### 3 実績

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
訪問世帯数	125世帯	144世帯	129世帯
延べ訪問件数	207件	206件	208件

### 4 事業費（令和4年度）

- 人件費（1,954千円） ※事務事業評価シートから  
正職員：0.03人 会計年度任用職員：0.65人  
※養育支援訪問24.1%・乳児家庭全戸訪問75.9% 訪問件数で按分
  - 需用費（90千円） ※訪問件数で按分  
消耗品費 13,138円 燃料費 38,957円 修繕料 37,663円
  - 役務費（56千円） ※訪問件数で按分  
通信運搬費 32,249円 自賠責 14,265円 自動車損害共済 8,659円
  - 使用料及び賃借料（2千円） ※訪問件数で按分  
複写機借上料 1,593円
  - 公課費（5千円） ※訪問件数で按分  
自動車重量税 4,772円
- 事業費 合計：2,107千円

### 5 その他

飯塚市の全地区に対する担当者の配置  
14名の保健師・1名の助産師・5名の家庭児童相談員を担当  
として配置し、きめ細かな対応を実施

# 虐待等の予防事業（アウトリーチ型支援）について

## 訪問指導（妊産婦、新生児、乳幼児健診未受診者）事業（子育て支援課 母子保健係）

### 1 目的

- ①妊産婦の状況及び子どもの発育状況の把握と支援  
保健師、助産師が訪問し、妊産婦の精神的不安の解消と児の健全な発育・発達に向けた支援を行う
- ②乳幼児健診の未受診者の把握と育児支援  
早期に未受診理由を把握し、適切な育児支援を行う
- ③児童虐待の未然防止  
早期に家庭に関わり、育児不安を軽減し、家庭の養育力の向上を図る

### 2 対象

- ①妊婦のいる家庭
- ②新生児（生後28日未満）のいる家庭
- ③乳児（生後1年未満）・幼児（生後1年以降）のいる家庭

### 3 実績

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
妊婦訪問	67件（100%）	71件（100%）	101件（100%）
新生児訪問	46件（100%）	27件（100%）	31件（100%）
乳児訪問	271件（100%）	284件（100%）	264件（100%）
幼児訪問	194件（100%）	235件（100%）	252件（100%）
未受診者訪問	46件（100%）	74件（100%）	98件（100%）

### 4 事業費（令和4年度）

- 人件費（13,156千円）※事務事業評価シートから（訪問指導＋母子保健）  
正職員：1.46人 会計年度任用職員：0.65人
- 旅費（52千円）  
普通旅費 51,520円
- 需用費（431千円）  
消耗品費 18,830円 燃料費 208,479円 修繕料 203,467円
- 役務費（277千円）  
通信運搬費 128,747円 自賠責 78,920円 自動車損害共済 61,020円  
公用車定期点検手数料 7,392円
- 使用料及び賃借料（42千円）  
駐車場使用料 1,400円 ソフトウェア使用料 40,356円
- 公課費（22千円）  
自動車重量税 21,600円

事業費 合計：13,980千円

### 5 その他

- ①令和5年2月から伴走型相談支援の実施  
国の制度改正により、妊産婦に寄り添った支援を実施
- ②飯塚市の全地区に対する担当者の配置  
14名の保健師を担当として配置し、きめ細かな対応を実施

# 虐待等の予防事業（アウトリーチ型支援）について

## 低出生体重児健康診査（カンガルーケア）事業（子育て支援課 母子保健係）

### 1 目的

- ①低出生体重児や先天性疾患のある児の支援  
飯塚病院と連携し、個別の乳幼児健診（4か月・8か月・1歳6か月・3歳）を行い、疾病や異常の早期発見や健康保持増進を図り、継続的なフォローアップを行う
- ②児童虐待の未然防止  
早期に家庭に関わり、育児不安を軽減し、家庭の養育力の向上を図る

### 2 対象

- ①体重 2,000 g 未満の低出生体重児
- ②先天的疾患のある児

### 3 実績

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
4か月健診	未実施	未実施	22件(100%)
8か月健診	未実施	未実施	15件(100%)
1歳6か月健診	未実施	未実施	14件(100%)
3歳児健診	未実施	未実施	1件(100%)

### 4 事業費(令和4年度)

- 人件費(2,031千円) ※事務事業評価シートから  
正職員：0.26人
- 役務費(5千円)  
通信運搬費 4,688円
- 委託料(630千円)  
低出生体重児健康診査委託料 629,200円

事業費 合計：2,666千円

### 5 その他

- ①全国的にも珍しい飯塚市独自の事業  
拠点病院である飯塚病院がある立地と協力体制を活かして行っている事業
- ②令和4年度から飯塚病院が主体となって実施  
令和2～3年度までは、トライアル事業として市が主体となり実施していたが、トライアルの経験等を踏まえて連携調整を行い、令和4年度からは飯塚病院が主体となり実施するよう事業の流れを改善している。

# 虐待等の予防事業（アウトリーチ型支援）について

## 乳児家庭全戸訪問（赤ちゃんすくすく元気）事業（子育て支援課 母子保健係）

### 1 目的

- ①生後4か月までの乳児の養育状況の把握  
赤ちゃんすくすく元気訪問員が訪問し、乳児の健康状態のチェックを行う
- ②児童虐待の未然防止  
家庭での養育状況や母親の状況を把握し、乳児家庭の孤立を防ぎ、行政や地域社会資源をつなぐファーストタッチの機会を設ける

### 2 対象

- ①生後4か月までの乳児のいる家庭

### 3 実績

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
訪問対象件数	723件	715件	658件
訪問件数	708件	686件	642件
訪問率	97.9%	95.9%	97.6%

### 4 事業費(令和4年度)

- 人件費(6,155千円) ※事務事業評価シートから  
正職員：0.09人 会計年度任用職員：2.05人  
※養育支援訪問24.1%・乳児家庭全戸訪問75.9% 訪問件数で按分
  - 報償費(1,109千円)  
出産祝品料 1,108,800円
  - 需用費(283千円) ※訪問件数で按分  
消耗品費 41,378円 燃料費 122,690円 修繕料 118,614円
  - 役務費(174千円) ※訪問件数で按分  
通信運搬費 101,566円 自賠責 44,925円 自動車損害共済 27,269円
  - 使用料及び賃借料(6千円) ※訪問件数で按分  
複写機借上料 5,015円
  - 公課費(16千円) ※訪問件数で按分  
自動車重量税 15,028円
- 事業費 合計：7,743千円

### 5 その他

- ①令和5年2月から伴走型相談支援の実施  
国の制度改正により、妊産婦に寄り添った支援を実施
- ②未来の地域人財応援事業との連携  
第3子以降の出産時に10万円を支給する未来の地域人財応援事業の申請案内と受付を訪問の際に実施

# 虐待等の予防事業（アウトリーチ型支援）について

## 産後ケア事業（子育て支援課 母子保健係）

### 1 目的

#### ①心身ともに辛く孤独に陥りやすい母子の支援

産後の母の心身のケア及び育児サポートを行う

ショートステイ（母子の宿泊） 7泊まで

デイケア（母子の日帰り利用） 7日まで

デイケア（母乳育児相談） 1回まで

アウトリーチ（居宅訪問によるケア） 3回まで

#### ②児童虐待の未然防止

早期に家庭に関わり、育児不安を軽減し、産後うつを予防を図るなど家庭の養育力の向上を図る

### 2 対象

#### ①産後の心身の回復や育児に不安のある母子のいる家庭

#### ②多子世帯や多子出産により支援が必要な家庭

### 3 実績

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
利用実人数	135人	240人	186人
利用延べ件数	250件	387件	329件

### 4 事業費（令和4年度）

●人件費(3,904千円) ※事務事業評価シートから  
正職員：0.5人

●旅費(83千円)  
普通旅費 83,000円

●需用費(58千円)  
消耗品費 27,028円 印刷製本費 30,577円

●役務費(51千円)  
通信運搬費 50,349円

●委託料(3,264千円)  
産後ケア事業委託料 3,263,350円

●負担金補助及び交付金(5千円)  
諸会負担金 5,000円

事業費 合計：7,365千円

### 5 その他

#### ①令和3年度から対象者の拡充

生後4か月未満

→ 出産後1年を経過しない母親及びその乳児

#### ②利用泊数の加算

特にケアが必要と認められる場合は、日数や回数を加算

# 虐待等の予防事業（アウトリーチ型支援）について

## 産前・産後生活支援事業（子育て支援課 こども家庭相談係）

### 1 目的

- ①産前の体調不良等により家事や育児が困難な妊婦の支援  
支援員を派遣し、家事や育児の支援を行う
- ②産後の体調不良等により家事や育児が困難な産婦の支援  
支援員を派遣し、家事や育児の支援を行うとともに育児に関する助言等も行い、心身ともにケアをすることで産後うつを予防を図る
- ③児童虐待の未然防止  
早期に家庭に関わり、育児不安を軽減し、家庭の養育力の向上を図る

### 2 対象

- ①同居の親族等による家事・育児等の支援が受けられない妊婦
- ②同居の親族等による家事・育児等の支援が受けられない産後12か月を経過するまでの産婦

### 3 実績

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
登録者数	38人	36人	49人
実利用者数	15人	19人	17人
延べ派遣件数	116件	120件	93件
利用時間	232時間	239時間	185時間

### 4 事業費(令和4年度)

- 人件費(1,094千円) ※事務事業評価シートから  
正職員：0.14人
- 需用費(11千円)  
印刷製本費 10,849円
- 役務費(10千円)  
通信運搬費 9,464円
- 委託料(345千円)  
産前・産後生活支援事業委託料 344,840円

事業費 合計：1,460千円

### 5 その他

- ①令和5年度から委託事業者の追加  
シルバー人材センター・菜の花助産院（R5～）
- ②産後の利用期間の延長  
H27年改正 産後 8週間 → 産後16週間  
R5年改正 産後16週間 → 産後12か月
- ③令和5年度から利用回数の増加  
産後の利用回数（通常） 10回 → 12回  
産後の利用回数（多胎妊娠） 20回 → 22回

# 虐待等の予防事業（アウトリーチ型支援）について

## 支援対象児童等見守り強化事業（子育て支援課 こども家庭相談係）

### 1 目的

- ①特に支援が必要な児童や特定妊婦の支援  
主任児童委員や市が委託した訪問員が、生活必需品（飲食物や日用品）を携えて訪問することで、支援対象者を見守りを強化する
- ②地域社会から孤立しがちな子育て世帯の支援  
主任児童委員や市が委託した訪問員が、生活必需品（飲食物や日用品）を携えて訪問することで、孤立しがちな子育て世帯の見守りを強化する
- ③児童虐待の未然防止  
早期に家庭に関わり、育児不安を軽減し、家庭の養育力の向上を図る

### 2 対象

- ①要保護児童対策地域協議会の支援対象登録児童
- ②子育てに不安を持つ家庭等の子どもや特定妊婦

### 3 実績

訪問者	件数	令和3年度 (令和4年1月から 事業開始)	令和4年度
主任児童委員	対象件数	8世帯（12人）	14世帯（25人）
	延べ訪問件数	22件	116件
委託業者	対象件数	—	8世帯（16人）
	延べ訪問件数	—	64回

### 4 事業費(令和4年度)

- 人件費(3,247千円) ※事務事業評価シートから  
正職員：0.3人 会計年度任用職員：0.34人
- 委託料(822千円)  
支援対象児童等見守り強化事務委託料 821,700円
- 負担金補助及び交付金(292千円)  
支援対象児童等見守り強化事業費補助金 291,835円

事業費 合計：4,361千円

### 5 その他

- ①令和4年度から訪問者に委託事業者を追加  
主任児童委員（R3～）  
エフコープ生活協同組合（R4～）
- ②訪問頻度  
主任児童委員 → 月1回程度  
エフコープ生活協同組合 → 週1回程度

# 虐待等の予防事業（アウトリーチ型支援）について

## ひとり親家庭等日常生活支援事業（子育て支援課 こども家庭相談係）

### 1 目的

- ①一時的に生活援助や育児支援が必要となった母子家庭、父子家庭及び寡婦の支援  
登録したヘルパーを派遣し、家庭において生活支援や育児支援を行う
- ②児童虐待の未然防止  
早期に家庭に関わり、育児不安を軽減し、家庭の養育力の向上を図る

### 2 対象

一時的に生活援助等が必要な場合や日常生活に支障が生じている母子家庭、父子家庭及び寡婦の家庭

### 3 実績

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
登録者数	5人	6人	12人
実利用者数	3人	3人	6人
延べ派遣件数	149件	77件	130件
利用時間	298時間	149時間	251時間

### 4 事業費(令和4年度)

- 人件費(625千円) ※事務事業評価シートから  
正職員：0.08人
- 需用費(11千円)  
印刷製本費 10,850円
- 役務費(6千円)  
通信運搬費 5,404円
- 委託料(470千円)  
ひとり親家庭等日常生活支援事業委託料 469,232円

事業費 合計：1,112千円

### 5 その他

委託事業者  
シルバー人材センター